東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2010年9月17日

一体化と共存

親愛なるムスリムの皆様。幸福の太陽として登場したイスラームは、肌の色や言葉、出自の異なる人々を同じ信仰のもとに集結させました。この神からの最後の教えである宗教は、憎悪や敵意を取り除き、私たちの世界、人類に真の意味での平安と平和をもたらしました。そもそもイスラームという語の意味の一つも、平和です。従ってムスリムとは、平安と平和のうちに生きる人という意味です。平安と平和のうちにあることは、一体化と共存を強めることによって可能となります。

私たちの教えにおけるイバーダの意図も、ムスリムの間に一体化と共存を形成することであるということを私たちは目にしています。集団礼拝はこの最もよい例です。ジャーミ（モスク）とは、まとめる、集合させるという意味です。そこで一つの丸天井のもとで、列になって日に五回、アッラーの家に集まっているのはなぜかを考えましょう。列を密に組み、肩をあわせることによって私たちが示している共存を、私たちの心、思いを一つにすることによっても示さなければならないのです。巡礼というイバーダが、最大の心、思い、動きの一体化であることを誰か否定することができるでしょうか。

親愛なるムスリムの皆様。ムスリムを分裂させるため、イスラームの最初期以来、挑発や陰謀が行なわれてきました。そして様々な形をとって、あたかも一つの病気のように今日まで続けられてきました。この例を示すためには大した努力は必要ではありません。そう、オスマン朝の人々を分裂させ、彼らが一つの国家からいくつの小さな国家を作り出したか、皆さんもご存知でしょう。従って同じ信仰を持ち、同じ宗教を信じ、同じクルアーンを読み、同じキブラに向かい、同じ預言者の道を行く全てのムスリムの間にある自然な差異には寛容に接し、少なくとも異なる教えを持つ人々に対し示しているだけの寛容さを、同じ教えを持つ人々にも示し、一体化、共存のうちにあることが不可欠です。「分裂してはならない。」（イムラーン家章第103節）と語っている神の啓典に従う者であること、「一体化には恵みがあり、分裂には罰がある」とおっしゃられた預言者のウンマであることを忘れてはいけないのです。

大切な兄弟姉妹の皆様。一体化の精神のうちに行動した私たちの祖先は、歴史を通して大きな事業を成功させてきました。そしてイスラームやムスリムに向けられた危険も、それによって回避されてきました。今日、私たちが直面している困難さを、同じ意識を持って克服するために、アッラーの次のお言葉に耳を傾けましょう。「あなたがたはアッラーと使徒に従いなさい。そして論争して意気をくじかれ、力を失なってはならない。」（戦利品章第46節）一体化と共存の精神を生活に繁栄させ、平安に満ち、安定した社会となるため、アッラーが私たちへの援助者となってくださいますように。